

あいち森と緑づくり事業 アンケート結果

< 県民アンケート >

目次

調査のあらまし

1 調査の概要	1
2 調査対象者の属性	2
3 サンプルデザイン	3
4 この報告書のみかた	8

調査結果の分析

I 森と緑の働きについて

(1) 森や緑の公益的機能の認知度	9
(2) 森や緑の公益的機能の変化に対する意識	11
(3) 健全な森や緑を後世に引き継ぐことの必要性	13

II 「あいち森と緑づくり税」について

(1) 「あいち森と緑づくり税」の認知度	15
(2) 「あいち森と緑づくり事業」の必要性	17

III 人工林整備事業について

(1) 人工林の間伐と公益的機能について	19
(2) 人工林の間伐事業の認知度	21
(3) 人工林の間伐事業の実施理解度	23
(4) 人工林の間伐事業の継続について	25

IV 里山林整備事業について

(1) 里山林整備による公益的機能回復の認知度	27
(2) 里山林整備事業の認知度	29
(3) 里山林整備事業の理解度	31
(4) 里山林整備事業の継続について	33

V 都市緑化推進事業について

(1) 都市の緑の公益的機能の認知度	35
(2) 都市緑化推進事業の認知度	37
(3) 住まい周辺の緑について	39
(4) 都市の緑を増やしていくための取組について	41
(5) 都市の緑に関心を持つための取組について	43
(6) 都市緑化推進事業の継続について	45

VI 環境活動・学習事業について

(1) 環境活動・学習事業についての認知度	47
(2) 「自然保護活動」や「環境学習」の参加の有無	49
(3) 「自然保護活動」や「環境学習」の参加意識	51
(4) 環境活動・学習事業の継続について	53

VII 木の香る学校づくり推進事業について

(1) 愛知県産木材の利用と森林整備のかかわりについて	55
(2) 木の香る学校づくり推進事業の認知度	57
(3) 愛知県産木材製品の学校施設への導入状況	59
(4) 愛知県産木材製品の導入の有効性について	61
(5) 木の香る学校づくり推進事業の継続について	63

VIII 「あいち森と緑づくり事業」の今後について

(1) 「あいち森と緑づくり事業」の継続について	65
(2) 「あいち森と緑づくり事業」の新たな取組について	67
(3) 「あいち森と緑づくり税」の負担額について	69

調査票	71
-----	----

集計表	81
-----	----

調査のあらまし

1 調査の概要

(1) 調査の目的

あいち森と緑づくり税・事業の事業評価のために、県内全域の一般県民に税・事業に対する認知度・理解度等を把握し、調査分析を行い、今後の税・事業の在り方について検討するための基礎資料とする。

(2) 調査の項目

- ① 森と緑の働きについて
- ② 「あいち森と緑づくり税」について
- ③ 人工林整備事業について
- ④ 里山林整備事業について
- ⑤ 都市緑化推進事業について
- ⑥ 環境活動・学習事業について
- ⑦ 木の香る学校づくり推進事業について
- ⑧ 「あいち森と緑づくり事業」の今後について

(3) 調査の設計

- ① 愛知県
- ② 調査対象 県内居住の20歳以上の男女
- ③ 標本数 3,000人
- ④ 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- ⑤ 調査方法 郵送法
- ⑥ 調査期間 平成24年8月24日～9月10日

(4) 調査委託先

株式会社 ライフライン

(5) 回収結果

- ① 標本数 3,000人
- ② 回収数 1,506人 (50.2%)

2 調査対象者の属性

【性別】

総数	男性	女性	無回答
1 5 0 6人	6 9 2人	7 8 0人	3 4人
100.0%	45.9%	51.8%	2.3%

【年齢】

20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	無回答
1 0 8人	1 9 5人	2 5 6人	2 8 8人	2 1 2人	4 1 1人	3 6人
7.2%	12.9%	17.0%	19.1%	14.1%	27.3%	2.4%

【居住地域】

名古屋地域	尾張地域	西三河地域	東三河地域	無回答
4 0 3人	5 9 4人	3 1 1人	1 6 1人	3 7人
26.8%	39.4%	20.7%	10.7%	2.4%

【職業】

自営業	農林漁業	2 6人	1.7%
	商工サービス業	7 7人	5.1%
	自由業	7 9人	5.2%
勤め人	管理職	9 1人	6.0%
	専門技術職	2 0 2人	13.4%
	事務職	1 7 0人	11.3%
	労務職	2 1 2人	14.1%
無職	家事専業	3 4 5人	22.9%
	学生	1 9人	1.3%
	その他	2 4 2人	16.1%
無回答		4 3人	2.9%

3 サンプルデザイン

- (1) 母集団 愛知県内に居住する20歳以上の男女
- (2) 標本数 3,000
- (3) 地点数 150
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

ア 層化

愛知県内の市町村を、市（名古屋市は区）及び郡を単位として、16の調査地区にグループ化した（調査地区区分図のとおり）。さらに、各調査地区を名古屋市、その他の市と郡部（町村）の3つに分類し、それぞれを層とした。

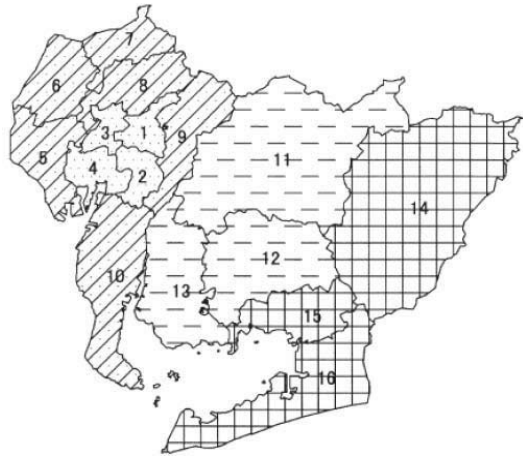
イ 標本数の配分

各層に、その推定母集団数（平成23年10月1日現在の人口）の大きさにより、3,000の標本数を比例配分した。

ウ 抽出の方法

- (ア) 第1次抽出単位となる調査地点として、平成22年国勢調査時に設定された調査区を使用した。
- (イ) 各層における調査地点については、1次調査地点の標本数が20となるように算出し、各層内での調査地点が1地点の場合は単純無作為抽出法により抽出、2地点以上となる場合は、「層における調査地区数の合計」÷「層で抽出された調査地点数」＝「抽出間隔」を算出し、等間隔抽出法により抽出した。
- (ウ) 各調査地点における対象者の抽出は、選挙人名簿により等間隔抽出法で抽出した。

調査地区区分図



地域	地区番号	地区名称 (市 (区)、郡)
名古屋地域	1	名古屋市東部地区 (千種区・東区・守山区・名東区)
	2	名古屋市南東部地区 (昭和区・瑞穂区・緑区・天白区)
	3	名古屋市北西部地区 (北区・西区・中村区・中区)
	4	名古屋市南西部地区 (熱田区・中川区・港区・南区)
尾張地域	5	海部津島地区 (津島市・愛西市・弥富市・あま市・海部郡)
	6	一宮地区 (一宮市・稲沢市)
	7	犬山江南地区 (犬山市・江南市・岩倉市・丹羽郡)
	8	春日井小牧地区 (春日井市・小牧市・清須市・北名古屋市・西春日井郡)
	9	尾張東部地区 (瀬戸市・尾張旭市・豊明市・日進市・長久手市・愛知郡)
	10	知多地区 (半田市・常滑市・東海市・大府市・知多市・知多郡)
西三河地域	11	豊田加茂地区 (豊田市・みよし市)
	12	岡崎額田地区 (岡崎市・額田郡)
	13	衣浦東部幡豆地区 (碧南市・刈谷市・安城市・西尾市・知立市・高浜市)
東三河地域	14	東三河山間地区 (新城市・北設楽郡)
	15	蒲郡豊川地区 (豊川市・蒲郡市)
	16	豊橋地区 (豊橋市・田原市)

調査地区別標本・調査地点数一覧

	名古屋市	その他の市	郡部(町村)	計	
名古屋地域	名古屋市東部地区	464,801 220 11		464,801 220 11	
	名古屋市南東部地区	488,545 240 12		488,545 240 12	
	名古屋市北西部地区	448,758 220 11		448,758 220 11	
	名古屋市南西部地区	473,981 220 11		473,981 220 11	
尾張地域	海部津島地区		208,585 100 5	56,793 40 2	265,378 140 7
	一宮地区		414,361 220 11		414,361 220 11
	犬山江南地区		179,477 100 5	44,610 40 2	224,087 140 7
	春日井小牧地区		482,106 240 12	11,607 0 0	493,713 240 12
	尾張東部地区		295,535 160 8	73,614 40 2	369,149 200 10
	知多地区		361,011 180 9	131,936 100 5	492,947 280 14
西三河地域	豊田加茂地区		381,026 180 9		381,026 180 9
	岡崎額田地区		297,196 140 7	30,112 20 1	327,308 160 8
	衣浦東部幡豆地区		536,104 240 12		536,104 240 12
東三河地域	東三河山間地区		40,609 20 1	9,342 0 0	49,951 20 1
	蒲郡豊川地区		211,931 120 6		211,931 120 6
	豊橋地区		353,575 160 8		353,575 160 8
計	1,876,085 900 45	3,761,516 1,860 93	358,014 240 12	5,995,615 3,000 150	

上段：推定母集団
中段：標本数
下段：調査地点数

調査地点一覧

地点名		対象数	
名古屋地域	名古屋市東部地区	千種区 菊地町二丁目 20	
	名古屋市東部地区	千種区 若水一丁目 20	
	名古屋市東部地区	千種区 星ヶ丘一丁目 20	
	名古屋市東部地区	東区 黒門町 20	
	名古屋市東部地区	東区 白鷺一丁目 20	
	名古屋市東部地区	守山区 小幡五丁目 20	
	名古屋市東部地区	守山区 川上町 20	
	名古屋市東部地区	川宮町 20	
	名古屋市東部地区	名東区 藤森二丁目 20	
	名古屋市東部地区	名東区 猪子石三丁目 20	
	名古屋市東部地区	名東区 藤巻町三丁目 20	
	名古屋市南東部地区	名古屋市	昭和区 塩付通三丁目 20
		名古屋市	瑞穂区 川名本町三丁目 20
		名古屋市	瑞穂区 白羽根町一丁目 20
		名古屋市	井戸田二丁目 20
		名古屋市	緑区 鳴海町 20
		名古屋市	六田一丁目 20
		名古屋市	松ヶ根台 20
名古屋市		高根台 20	
名古屋市		天白区 島田五丁目 20	
名古屋市		塩釜口一丁目 20	
名古屋市	中平四丁目 20		
名古屋市北西部地区	名古屋市	北区 清水三丁目 20	
	名古屋市	鳩岡町一丁目 20	
	名古屋市	水切町一丁目 20	
	名古屋市	西区 天神山町 20	
	名古屋市	則武新町一丁目 20	
	名古屋市	又穂町二丁目 20	
	名古屋市	中村区 竹橋町 20	
	名古屋市	八社二丁目 20	
	名古屋市	森田二丁目 20	
	名古屋市	中区 柴三丁目 20	
名古屋市	千代田三丁目 20		
名古屋市南西部地区	名古屋市	熱田区 白鷺二丁目 20	
	名古屋市	中川区 上高畑二丁目 20	
	名古屋市	五女子一丁目 20	
	名古屋市	中島新町二丁目 20	
	名古屋市	富田町 20	
	名古屋市	港区 辰巳町 20	
	名古屋市	名港一丁目 20	
	名古屋市	野跡五丁目 20	
	名古屋市	南区 寺部通二丁目 20	
	名古屋市	弥次卫町四丁目 20	
名古屋市	戸部町三丁目 20		

地点名		対象数	
尾張地域	海部津島地区	津島市 古川町一丁目 20	
	海部津島地区	愛西市 日置町 20	
	海部津島地区	弥富市 駒浦町 20	
	海部津島地区	あま市 木田道下 20	
	海部津島地区	本郷 20	
	海部津島地区	海部郡 大治町大字堀之内 20	
	海部津島地区	海部郡 蟹江町学戸六丁目 20	
	一宮地区	一宮市	大江一丁目 20
		一宮市	大浜二丁目 20
		一宮市	丹陽町 20
		一宮市	大和町 20
		一宮市	北方町 20
一宮市		浅井町 20	
一宮市		開明 20	
一宮市		稲沢市 大塚町 20	
一宮市		正明寺一丁目 20	
一宮市		長野二丁目 20	
大山西南地区	大山市	大字大山 20	
	大山市	内田東町 20	
	江南市	古知野町 20	
	江南市	前飛保町 20	
	岩倉市	新柳町一丁目 20	
	丹羽郡	大口町河北三丁目 20	
	丹羽郡	扶桑町大字高木 20	
	春日井小牧地区	春日井市	鳥居松町二丁目 20
		春日井市	篠木町三丁目 20
		春日井市	篠木町六丁目 20
春日井市		春日井上ノ町 20	
春日井市		上ノ町一丁目 20	
春日井市		藤山台三丁目 20	
小牧市		元町二丁目 20	
小牧市		大字西之島 20	
小牧市		光ヶ丘一丁目 20	
小牧市		土器野 20	
尾張東部地区	北名古屋市	鹿田 20	
	北名古屋市	二子 20	
	瀬戸市	北郷町一丁目 20	
	瀬戸市	西山町一丁目 20	
	瀬戸市	上之山町三丁目 20	
	尾張旭市	西大道町 20	
	尾張旭市	旭ヶ丘町 20	
	豊明市	新田町 20	
	日進市	東山二丁目 20	
	日進市	赤池三丁目 20	
知多地区	長久手市	熊張 20	
	愛知県	東郷町大字諸輪 20	
	半田市	瑞穂町九丁目 20	
	半田市	花園町六丁目 20	
	常滑市	千代ヶ丘三丁目 20	
	東海市	大田町 20	
	東海市	富木島町 20	
	大府市	桃山町五丁目 20	
	大府市	北崎町一丁目 20	
	知多市	岡田 20	
知多地区	知多市	梅が丘一丁目 20	
	知多郡	阿久比町大字矢高 20	
	知多郡	東浦町大字緒川 20	
	知多郡	南知多町大字豊浜 20	
	知多郡	美浜町大字河和 20	
	知多郡	武豊町字土穴 20	

地点名		対象数
西三河地域	豊田加茂地区	豊田市 西町二丁目 20
	豊田加茂地区	丸町九丁目 20
	豊田加茂地区	宮上町二丁目 20
	豊田加茂地区	京ヶ峰一丁目 20
	豊田加茂地区	敏都東町 20
	豊田加茂地区	花園町 20
	豊田加茂地区	四郷町 20
	豊田加茂地区	井上町十三丁目 20
	豊田加茂地区	みよし市 東山台 20
	岡崎額田地区	岡崎市 伝馬通字二丁目 20
岡崎額田地区	明大寺町 20	
岡崎額田地区	本宿町 20	
岡崎額田地区	福岡町 20	
岡崎額田地区	中園町 20	
岡崎額田地区	真福寺町 20	
岡崎額田地区	桜形町 20	
岡崎額田地区	額田郡 幸田町大字大草 20	
衣浦東部幡豆地区	碧南市	幸町七丁目 20
	刈谷市	大手町一丁目 20
	刈谷市	泉田町 20
	刈谷市	小江江町 20
	安城市	花ノ木町 20
	安城市	古井町 20
	西尾市	今川町 20
	西尾市	針曾根町 20
	西尾市	吉良町萩原 20
	西尾市	一色町字味浜 20
知立市	池端二丁目 20	
高浜市	根田町六丁目 20	

地点名		対象数
東三河地域	東三河山間地区	新城市 市場台一丁目 20
	蒲郡豊川地区	豊川市 金屋橋町 20
		豊川市 高見町二丁目 20
		豊川市 平尾町 20
		豊川市 御津町 20
	蒲郡市 宮成町 20	
	蒲郡市 竹谷町 20	
	豊橋地区	豊橋市 東田町 20
		豊橋市 呉服町 20
		豊橋市 江島町 20
豊橋市 王ヶ崎町 20		
豊橋市 牟呂公文町 20		
豊橋市 多米中町二丁目 20		
豊橋市 曙町 20		
豊橋市 大崎町 20		
豊橋市 田原町 20		

4 この報告書のみかた

- ・ 回答率（％）は、小数第2位を四捨五入したため、合計が100%にならない場合がある。また、小計についても同様に異なる場合がある。
- ・ 1人の対象者に複数の回答を認めたものについては、その項目を選んだ人が回答者全体に占める割合を表しており、通常その比率の合計は100%を超える。
- ・ 調査結果については統計上多少の誤差（標本誤差）が生じることがあり、調査結果をみる場合には、次のような一定の幅をもたせてみる必要がある。
- ・ 標本誤差は、次の式で算出される。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{2 \times P \times (100 - P)}{N}}$$

P : 回答率（％）
N : 回答者数（人）

【標本誤差早見表（主なもの）】

	N : 回答者数 (人)	P : 回答率 (%)										
		5又は 95	10又は 90	15又は 85	20又は 80	25又は 75	30又は 70	35又は 65	40又は 60	45又は 55	50	
総数	1506	1.6	2.2	2.6	2.9	3.2	3.3	3.5	3.6	3.6	3.6	
性別	男性	692	2.3	3.2	3.8	4.3	4.6	4.9	5.1	5.2	5.3	5.3
	女性	780	2.2	3.1	3.7	4.1	4.4	4.7	4.9	5.0	5.1	5.1
年齢別	20～29歳	108	6.0	8.0	10.0	11.0	11.5	12.0	13.0	13.0	14.0	14.0
	30～39歳	195	4.4	6.1	7.2	8.1	8.8	9.3	9.7	9.9	10.1	10.1
	40～49歳	256	3.9	5.3	6.3	7.0	7.6	8.0	8.4	8.6	8.7	8.8
	50～59歳	288	3.6	5.0	6.0	6.7	7.3	7.7	8.0	8.2	8.4	8.4
	60～64歳	212	4.2	5.8	6.9	7.8	8.4	8.9	9.3	9.5	9.7	9.7
65歳以上	411	3.0	4.2	5.0	5.6	6.1	6.4	6.7	6.9	7.0	7.0	
地域別	名古屋地域	403	3.1	4.2	5.0	5.6	6.1	6.5	6.7	6.9	7.0	7.1
	尾張地域	594	2.5	3.5	4.2	4.6	5.0	4.9	5.5	5.7	5.8	5.9
	西三河地域	311	3.5	4.8	5.7	6.4	6.9	7.3	7.6	7.8	8.0	8.0
	東三河地域	161	4.9	6.7	8.0	8.9	9.7	10.2	10.6	10.9	11.1	11.1
職業別	自営業	182	4.6	6.3	7.5	8.4	9.1	9.6	10.0	10.2	10.4	10.5
	勤め人	675	2.4	3.3	3.9	4.4	4.7	5.0	5.2	5.3	5.4	5.4
	無職	606	2.4	3.4	4.1	4.5	4.9	4.6	5.4	5.6	5.7	5.8

調査結果の分析

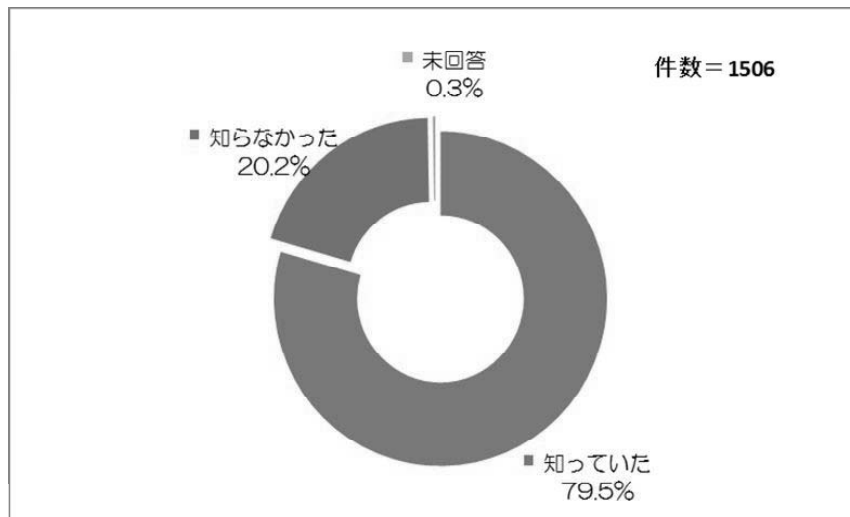
I 森と緑の働きについて

(1) 森や緑の公益的機能の認知度

森と緑に公益的機能があることについて「知っていた」と答えた人は 79.5%

問 I-1 森と緑は、災害の防止など様々な公益的機能により、私たちの暮らしを支えています。あなたは、このことについて知っていましたか。(〇は 1 つ)

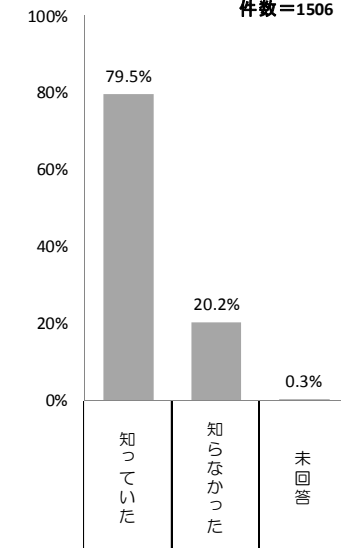
森と緑には公益的機能があり、災害防止など私達の暮らしを支えていることを「知っている」と答えた人の割合が 79.5%に対し、「知らなかった」と答えた人の割合は 20.2%となっている。



森や緑の公益的機能の認知度（性別、年齢別、地域別、職業別）

- ◆性別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合で男性（79.0%）と女性（79.6%）との差は少ない
- ◆年齢別で見ると、「知っている」と答えた割合は 20 歳～29 歳では 69.4%で、年齢層が上がることに割合が増え、65 歳以上は 85.6%と段階的に高くなっている。
- ◆地域別で見ると、名古屋地域（81.9%）と東三河地域（76.4%）とでは 5.5 ポイントの差がある。
- ◆職業別で見ると、勤め人（78.5%）、無職（79.5%）、自営業（82.4%）の順に「知っている」と答えた人の割合が高くなっている。

件数 = 1506



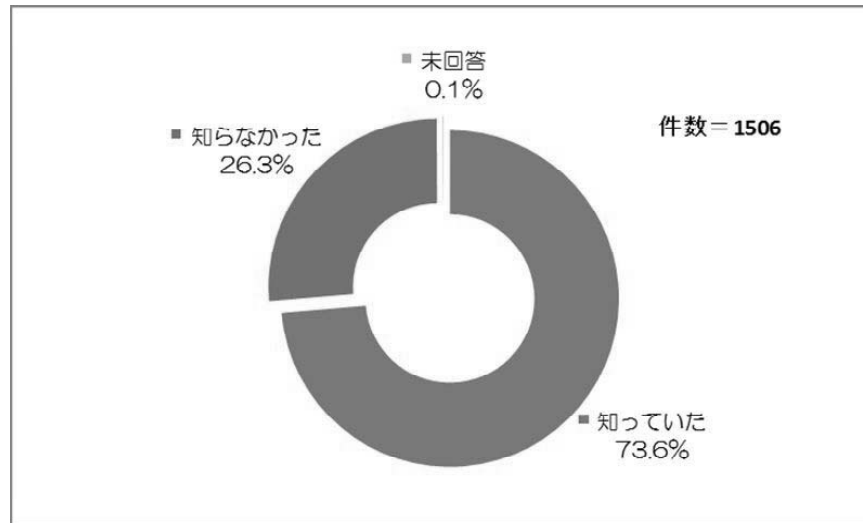
属性	性別	年齢別	地域別	職業別	知っていた	知らなかった	未回答
性別	男性				79.0%	20.4%	0.6%
	女性				79.6%	20.4%	0.0%
年齢別		20歳～29歳			69.4%	30.6%	0.0%
		30歳～39歳			73.3%	26.7%	0.0%
		40歳～49歳			72.3%	27.7%	0.0%
		50歳～59歳			78.8%	21.2%	0.0%
		60歳～64歳			86.8%	13.2%	0.0%
		65歳以上			85.6%	13.4%	1.0%
地域別			名古屋地域		81.9%	17.6%	0.5%
			尾張地域		78.6%	21.0%	0.3%
			西三河地域		79.4%	20.6%	0.0%
			東三河地域		76.4%	23.6%	0.0%
職業別				自営業	82.4%	17.6%	0.0%
				勤め人	78.5%	21.5%	0.0%
				無職	79.5%	20.0%	0.5%

(2) 森や緑の公益的機能の変化に対する意識

森と緑の公益的機能が低下していくことについて「知っていた」と答えた人の割合は73.6%

問I-2 近年、木材価格の低迷により、所有者による人工林の手入れが不足したり、都市の緑は開発などにより減少していきたりして、森と緑の持つ様々な公益的機能がだんだん低下していきってしまうことが心配されています。あなたは、このことを知っていましたか。(〇は1つ)

木材価格の下落、あるいは都市の開発などが、森と緑の公益的機能の低下にまでつながっていることを「知っている」と答えた人の割合は73.6%ある。一方で「知らなかった」と答えた人の割合は26.3%である。



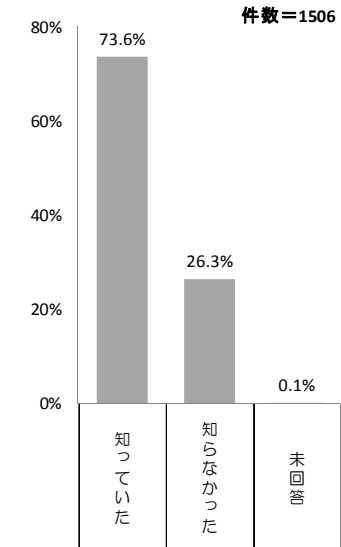
森や緑の公益的機能の変化に対する意識(性別、年齢別、地域別、職業別)

◆性別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は男性(76.3%)と女性(70.9%)とでは5.4ポイントの差がある。

◆年齢別で見ると、20代では「知らなかった」が51.9%に対し、「知っていた」が48.1%と少なく、回答が全体と比べて逆転している。

◆地域別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は尾張地域(75.4%)と東三河地域(68.9%)とでは6.5ポイントの差がある。

◆職業別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は、勤め人(70.5%)、自営業(75.3%)、無職(76.4%)の順に高くなっている。

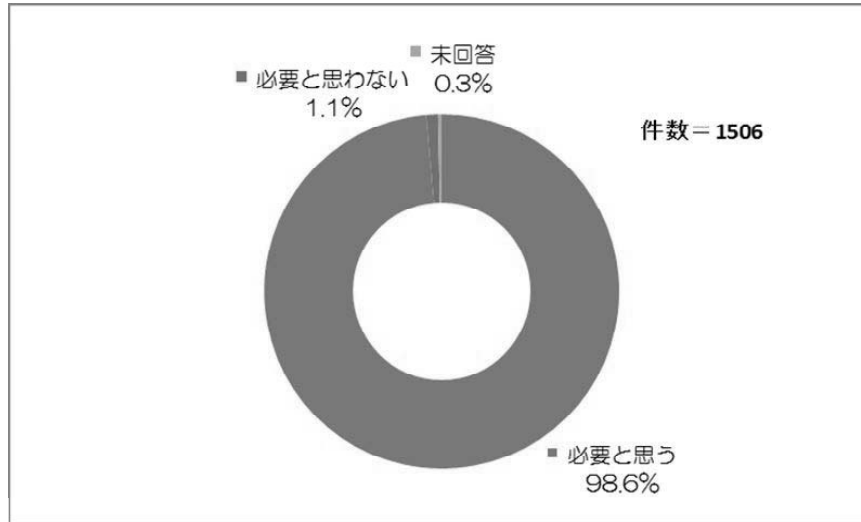


性別	男性	76.3%	23.7%	0.0%
女性	70.9%	29.0%	0.1%	
年齢別	20歳~29歳	48.1%	51.9%	0.0%
	30歳~39歳	57.9%	42.1%	0.5%
	40歳~49歳	66.0%	34.0%	0.0%
	50歳~59歳	76.7%	23.3%	0.0%
	60歳~64歳	82.5%	17.0%	0.5%
	65歳以上	84.9%	15.1%	0.0%
地域別	名古屋地域	72.7%	27.3%	0.0%
	尾張地域	75.4%	24.6%	0.0%
	西三河地域	73.0%	26.7%	0.3%
	東三河地域	68.9%	31.1%	0.0%
職業別	自営業	75.3%	24.2%	0.5%
	勤め人	70.5%	29.5%	0.0%
	無職	76.4%	23.6%	0.0%

(3) 健全な森や緑を後世に引き継ぐことの必要性

健全な森や緑を後世に引き継ぐことについて「必要と思う」が98.6%

問I-3 将来に向けて健全な森と緑を引き継いでいくことについて、必要と思いますか。(〇は1つ)

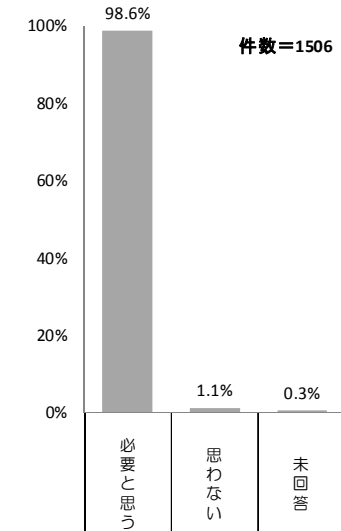


健全な森の状態の後世に引き継いでいくことについて「必要と思う」と答えた人の割合は(98.6%)と非常に高くなっている。一方で「必要と思わない」と答えた人の割合は1.1%とわずかである。

「必要と思わない」の理由としては、「所有者が行えばよい」、「自分の生活のほうが大事」、「税金のムダ使いには反対」などがある。

健全な森や緑を後世に引き継ぐことの必要性(性別、年齢別、地域別、職業別)

- ◆性別で見ると、「必要と思う」と答えた人の割合は、男女別では0.2ポイントと差は小さい。
- ◆年齢別で見ると、「必要と思う」と答えた人の割合は、何れの年齢層も高く、年齢層での差は小さい。
- ◆地域別で見ると、西三河地域(99.4%)が高くなっている。
- ◆職業別で見ると、自営業(99.5%)が高くなっている。



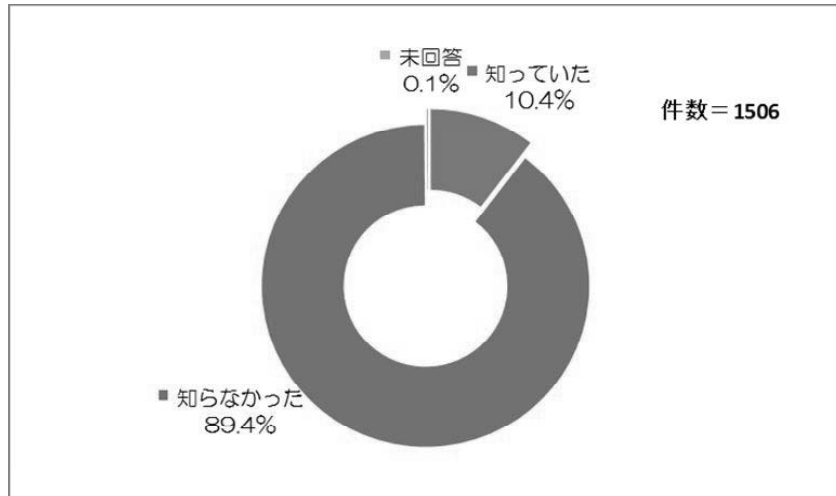
性別	必要と思う	必要と思わない	未回答
男性	98.6%	1.3%	0.1%
女性	98.8%	0.8%	0.4%
年齢別	必要と思う	必要と思わない	未回答
20歳~29歳	97.2%	0.9%	1.9%
30歳~39歳	98.5%	1.0%	0.5%
40歳~49歳	98.8%	1.2%	0.0%
50歳~59歳	99.3%	0.7%	0.0%
60歳~64歳	98.6%	1.4%	0.0%
65歳以上	98.8%	1.0%	0.2%
地域別	必要と思う	必要と思わない	未回答
名古屋地域	98.8%	1.2%	0.0%
尾張地域	98.7%	1.0%	0.3%
西三河地域	99.4%	0.3%	0.3%
東三河地域	97.5%	1.9%	0.6%
職業別	必要と思う	必要と思わない	未回答
自営業	99.5%	0.5%	0.0%
勤め人	98.5%	1.2%	0.3%
無職	98.7%	1.0%	0.3%

II 「あいち森と緑づくり税」について

(1) 「あいち森と緑づくり税」の認知度

「あいち森と緑づくり税」について「知らなかった」が89.4%

問II-1 このアンケート調査の前に「あいち森と緑づくり税」のことを知っていましたか。(〇は1つ)



「あいち森と緑づくり税」のことを「知っていた」と答えた人は10.4%と低く、「知らなかった」と答えた人は89.4%と高くなっている。

※あいち森と緑づくり税とは、森や緑が持つ環境保全や災害防止などの様々な働きを高めるため、平成21年度から県民税均等割の額に一定額を上乗せして、御負担いただいているものです(個人年額500円増、法人5%増(年額1,000円~40,000円増))。

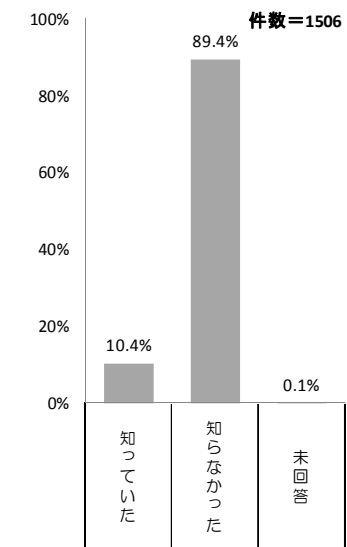
「あいち森と緑づくり税」の認知度(性別、年齢別、地域別、職業別)

◆性別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は男性(11.7%)が高くなっている。

◆年齢別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は65歳以上(16.3%)、次いで60歳~64歳(10.8%)と高くなっている。

◆地域別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は西三河地域(11.9%)が高く、名古屋地域(9.7%)は低くなっている。

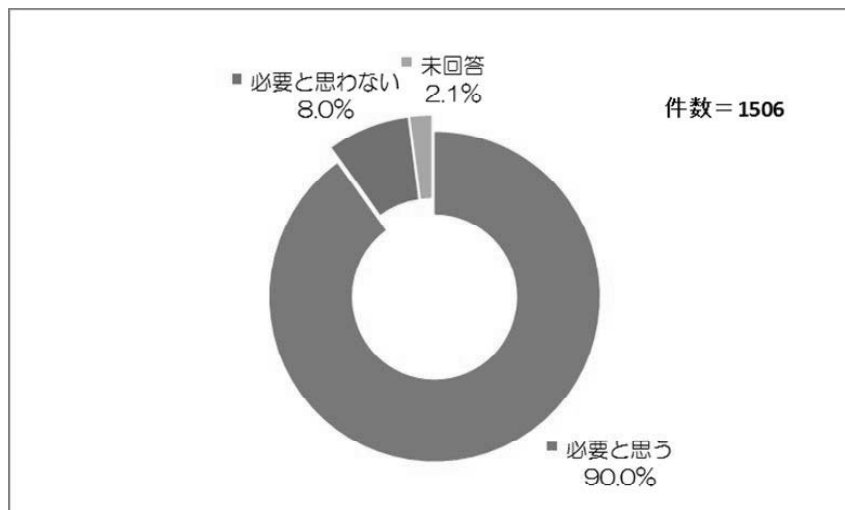
◆職業別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は自営業(9.9%)が無職(12.2%)に比べ低くなっている。



性別	男性	11.7%	88.3%	0.0%
女性		9.4%	90.5%	0.1%
年齢別	20歳~29歳	2.8%	97.2%	0.0%
	30歳~39歳	7.7%	91.8%	0.5%
	40歳~49歳	9.4%	90.6%	0.0%
	50歳~59歳	7.6%	92.4%	0.0%
	60歳~64歳	10.8%	89.2%	0.0%
	65歳以上	16.3%	83.7%	0.0%
地域別	名古屋地域	9.7%	90.3%	0.0%
	尾張地域	10.4%	89.4%	0.2%
	西三河地域	11.9%	88.1%	0.0%
東三河地域	10.6%	89.4%	0.0%	
職業別	自営業	9.9%	90.1%	0.0%
	勤め人	9.2%	90.7%	0.1%
	無職	12.2%	87.8%	0.0%

(2) 「あいち森と緑づくり事業」の必要性
 間伐や都市緑化などの取り組みを「必要と思う」が90.0%

問Ⅱ-2 「あいち森と緑づくり税」を使った間伐や都市緑化などの取り組みを必要と思いますか。
 (〇は1つ)



「あいち森と緑づくり税」を使った間伐や都市緑化などの取り組みについては「必要と思う」と答えた人の割合は90.0%ある。一方で「必要と思わない」と答えた人の割合は8.0%ある。

「必要と思わない」の理由としては、「増税に反対」、「税金の使い道が不明確」、「税金ではなく別の方法で資金を作る」、「所有者が行うべき」などがある。

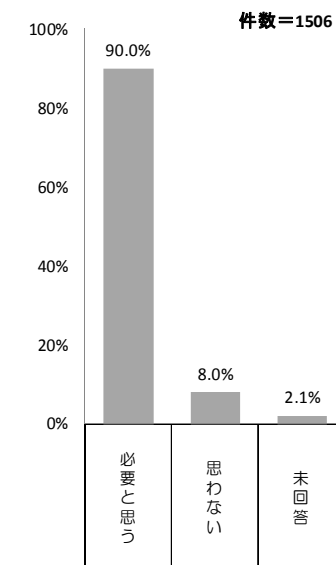
「あいち森と緑づくり事業」の必要性（性別、年齢別、地域別、職業別）

◆性別で見ると、「必要と思う」と答えた人の割合は、男性（87.6%）と女性（92.3%）とでは4.7ポイントの差がある。

◆年齢別で見ると、「必要と思う」と答えた人の割合は、20代（91.7%）が高く、次いで60歳～64歳（92.0%）、65歳以上（92.0%）の順に高くなっている。

◆地域別で見ると、「必要と思う」と答えた人の割合は、東三河地域（92.5%）、西三河地域（92.0%）の順に高くなっている。

◆職業別で見ると、「必要と思う」と答えた人の割合は、自営業（88.5%）に比べ勤め人（89.5%）、無職（91.1%）が高くなっている。



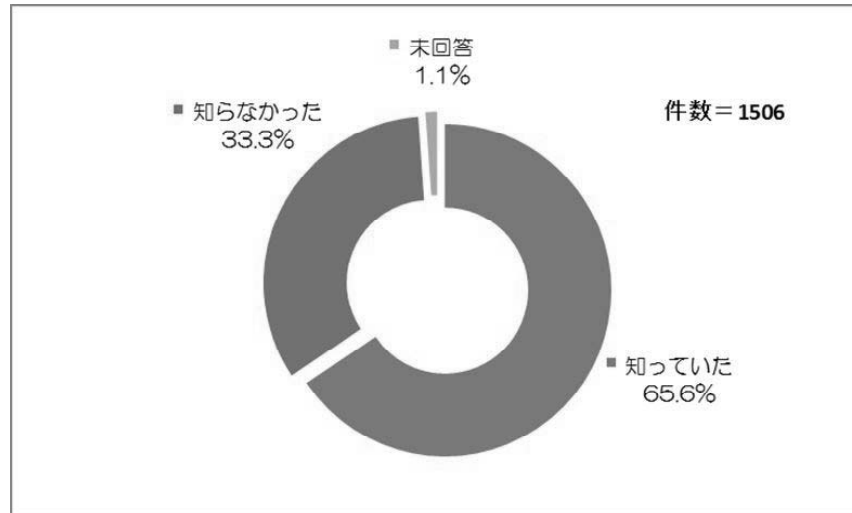
性別	必要と思う	必要と思わない	未回答
男性	87.6%	11.3%	1.2%
女性	92.3%	4.9%	2.8%
年齢別			
20歳～29歳	91.7%	7.4%	0.9%
30歳～39歳	89.2%	9.2%	1.5%
40歳～49歳	87.9%	9.0%	3.1%
50歳～59歳	87.8%	9.7%	2.4%
60歳～64歳	92.0%	7.1%	0.9%
65歳以上	92.0%	5.8%	2.2%
地域別			
名古屋地域	89.1%	8.9%	2.0%
尾張地域	89.1%	8.4%	2.5%
西三河地域	92.0%	5.8%	2.3%
東三河地域	92.5%	7.5%	0.0%
職業別			
自営業	88.5%	8.2%	3.3%
勤め人	89.5%	8.6%	1.9%
無職	91.1%	7.1%	1.8%

Ⅲ 人工林整備事業について

(1) 人工林の間伐と公益的機能について

間伐は森林(人工林)の公益的機能を高めることを「知っていた」が65.6%

問Ⅲ-1 間伐は森林(人工林)の公益的機能を高めることを知っていましたか。(○は1つ)

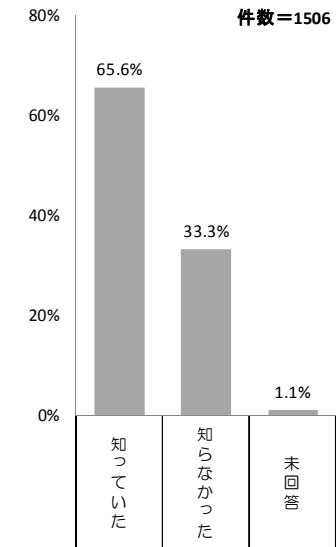


間伐は森林の公益的機能を高めることを「知っていた」と答えた割合は65.6%ある。一方で「知らなかった」と答えた割合は33.3%ある。

※「人工林整備事業」とは、公益的機能を発揮させるため、手入れの遅れたスギ・ヒノキの人工林の間伐する事業。

人工林の間伐と公益的機能について(性別、年齢別、地域別、職業別)

- ◆性別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は、男性(69.9%)は女性(61.3%)に比べ高い。
- ◆「知っていた」と答えた人の割合は、年齢層が上がるごとに増えており、20代(40.7%)と60歳~64歳(75.9%)とでは35.2ポイントの差がある。
- ◆地域別で見ると、名古屋地域(67.7%)、東三河地域(65.2%)の順に高くなっている。
- ◆職業別で見ると、自営業(68.1%)、無職(65.8%)、勤め人(64.4%)の順に高くなっている。

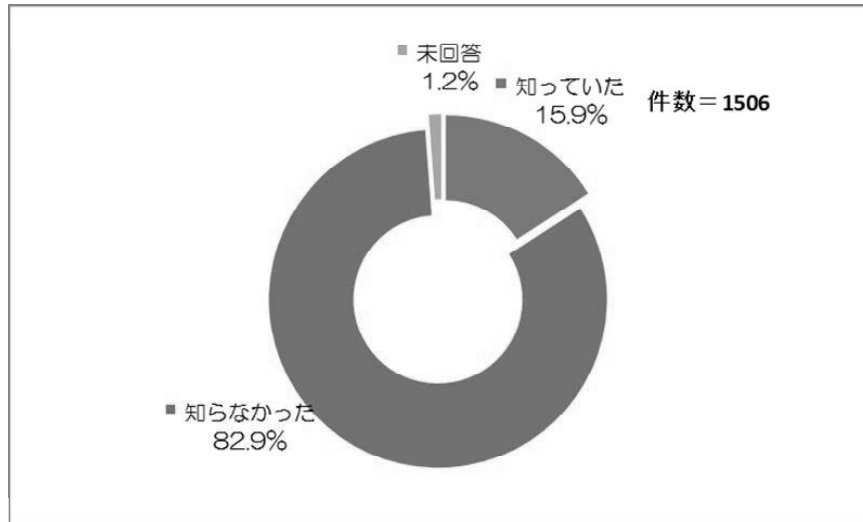


性別	男性	69.9%	29.3%	0.7%
女性	61.3%	37.4%	1.3%	
年齢別	20歳~29歳	40.7%	59.3%	0.0%
	30歳~39歳	54.9%	45.1%	0.0%
	40歳~49歳	57.8%	41.8%	0.4%
	50歳~59歳	67.4%	31.3%	1.4%
	60歳~64歳	75.9%	23.6%	0.5%
	65歳以上	74.5%	23.4%	2.2%
地域別	名古屋地域	67.7%	31.0%	1.2%
	尾張地域	64.5%	34.2%	1.3%
	西三河地域	64.6%	34.7%	0.6%
	東三河地域	65.2%	34.8%	0.0%
職業別	自営業	68.1%	30.2%	1.6%
	勤め人	64.4%	35.0%	0.6%
	無職	65.8%	33.0%	1.2%

(2) 人工林の間伐事業の認知度

スギ・ヒノキの人工林の間伐していることを「知らなかった」が82.9%

問Ⅲ-2 あいち森と緑づくり事業で愛知県内の手入れの遅れたスギ・ヒノキの人工林の間伐していることを知っていましたか。(〇は1つ)



あいち森と緑づくり事業で愛知県内の人工林の間伐していることを「知っていた」と答えた人の割合は15.9%である。一方で「知らなかった」と答えた人の割合は82.9%と高くなっている。

※あいち森と緑づくり事業とは、あいち森と緑づくり税の税収等を財源として、森や緑が持つ様々な働き高めるため、県内の森林、里山林、都市の緑をバランスよく整備する取り組みを行っている事業です。

人工林の間伐事業の認知度(性別、年齢別、地域別、職業別)

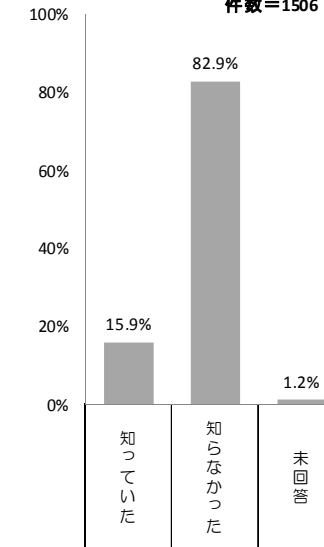
◆性別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は男性(16.6%)と女性(14.6%)とでは2.0ポイントの差がある。

◆年齢別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は20代(7.4%)、次いで40代(7.8%)と低くなっている。

◆地域別で見ると、名古屋地域(13.2%)と他の地域より3.0ポイント以上低くなっている。

◆職業別で見ると、無職(19.5%)、自営業(18.1%)、勤め人(11.6%)の順に高くなっている。

件数=1506



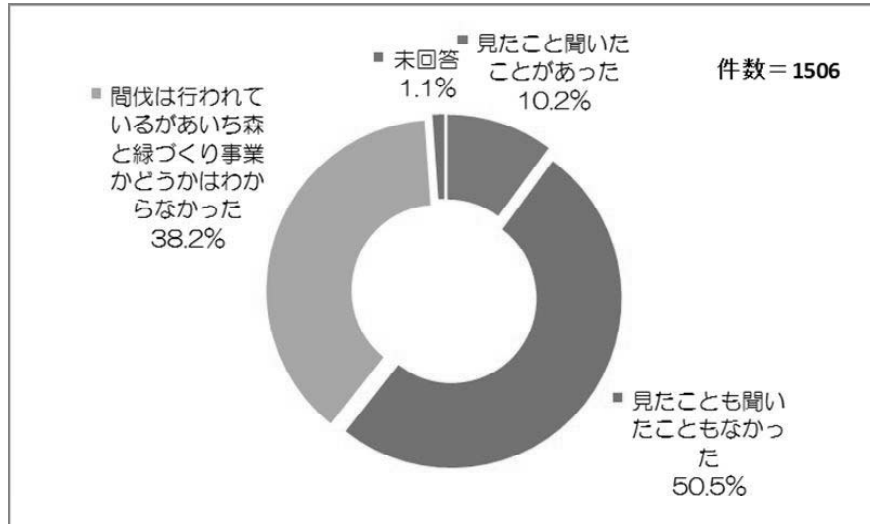
性別	男性	16.6%	82.8%	0.6%
性別	女性	14.6%	83.8%	1.5%
年齢別	20歳~29歳	7.4%	92.6%	0.0%
	30歳~39歳	13.3%	86.7%	0.0%
	40歳~49歳	7.8%	91.8%	0.4%
	50歳~59歳	9.4%	89.2%	1.4%
	60歳~64歳	22.6%	77.4%	0.0%
	65歳以上	24.3%	73.0%	2.7%
地域別	名古屋地域	13.2%	85.4%	1.5%
	尾張地域	16.5%	82.5%	1.0%
	西三河地域	16.7%	82.3%	1.0%
	東三河地域	16.8%	82.6%	0.6%
職業別	自営業	18.1%	79.7%	2.2%
	勤め人	11.6%	88.0%	0.4%
	無職	19.5%	79.2%	1.3%

(3) 人工林の間伐事業の理解度

人工林の間伐事業の実施について「見たことも聞いたこともなかった」が50.5%

問Ⅲ-3 あいち森と緑づくり事業での人工林の間伐を見たこと、聞いたことがありましたか。

(〇は1つ)



人工林が間伐されていることについて「間伐は行われているが、あいち森と緑づくり事業かどうかはわからなかった」と答えた人の割合は38.2%、「見たこと聞いたことがあった」と答えた人の割合は10.2%となっている。一方で「見たことも聞いたこともなかった」と答えた人の割合は50.5%となっている。

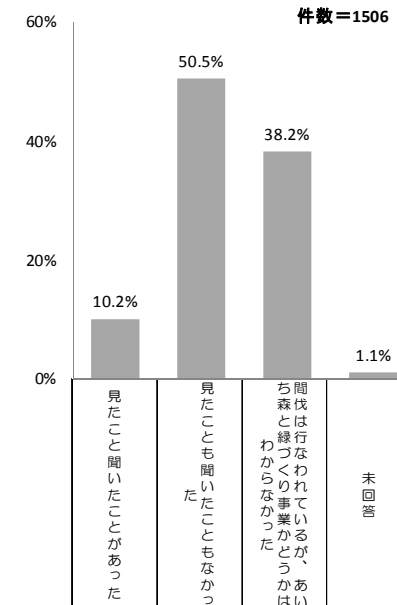
人工林の間伐事業の理解度(性別、年齢別、地域別、職業別)

◆性別で見ると、「見たことも聞いたこともなかった」と答えた人の割合は、男性(53.2%)が高くなっている。

◆年齢別で見ると、「見たこと聞いたことがあった」と答えた人の割合は、20代は0.9%と少ない。

◆地域別で見ると、名古屋地域(7.7%)と東三河地域(11.2%)とでは3.5ポイントの差がある。

◆職業別で見ると、「見たこと聞いたことがあった」と答えた人の割合は自営業(15.9%)、無職(11.6%)、勤め人(11.2%)の順に高くなっている。

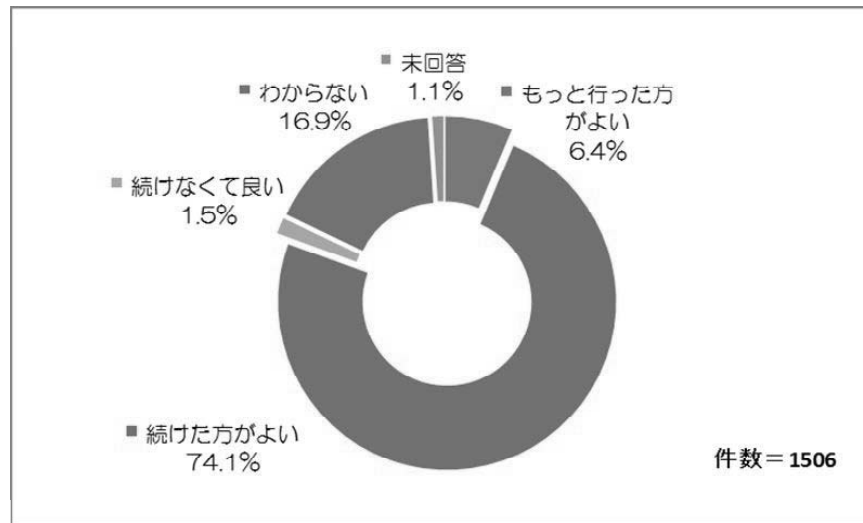


性別	男性	10.4%	53.2%	35.8%	0.6%
女性	9.1%	49.4%	40.1%	1.4%	
年齢別	20歳~29歳	0.9%	74.1%	25.0%	0.0%
	30歳~39歳	7.2%	63.6%	29.2%	0.0%
	40歳~49歳	5.9%	59.4%	34.0%	0.8%
	50歳~59歳	7.3%	51.7%	39.9%	1.0%
	60歳~64歳	13.7%	40.6%	44.8%	0.9%
	65歳以上	15.3%	39.2%	43.6%	1.9%
地域別	名古屋地域	7.7%	55.3%	35.7%	1.2%
	尾張地域	10.3%	53.5%	35.4%	0.8%
	西三河地域	10.6%	42.4%	45.7%	1.3%
	東三河地域	11.2%	48.4%	39.8%	0.6%
職業別	自営業	15.9%	47.8%	34.6%	1.6%
	勤め人	6.7%	57.0%	35.7%	0.6%
	無職	11.6%	45.5%	41.7%	1.2%

(4) 人工林の間伐事業の継続について

人工林の間伐事業の継続について「続けたほうが良い」が74.1%

問Ⅲ-4 あいち森と緑づくり事業で今後も間伐を続けたほうが良いと思いますか。(〇は1つ)



あいち森と緑づくり事業で間伐を「もっと行ったほうが良い」と答えた人の割合は6.4%、「続けたほうが良い」と答えた人の割合は74.1%となっている。

一方で、「続けなくてよい」と答えた人の割合は1.5%、「わからない」と答えた人の割合は16.9%となっている。

「続けなくて良い」の理由としては、「自然を壊すから」、「所有者が行うべき」、「民間業者が行うべき」、「受益者負担が良い」などがある。

(5) その他、人工林整備に対する自由意見

「長年にわたり整備する必要がある」、「自然災害防止のために整備は必要」、「事業のPRが必要」、「どの地域も均等に整備してほしい」、「広葉樹を植栽すべき」、「最低限の手入れで充分」、「所有者が行うべき」などがある。

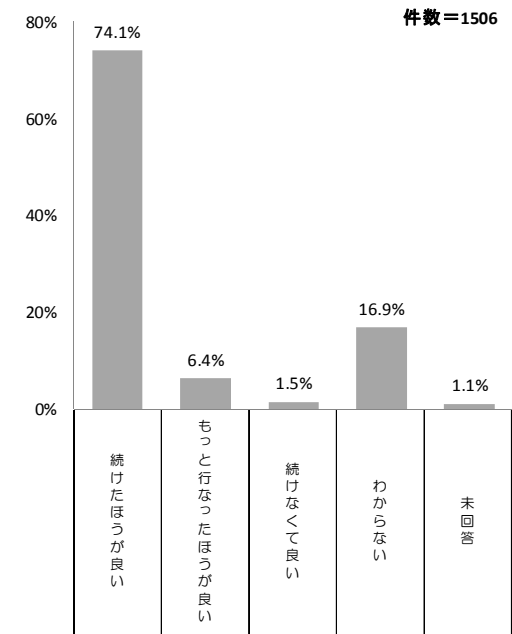
人工林の間伐事業の継続について(性別、年齢別、地域別、職業別)

◆性別で見ると、「続けたほうが良い」と答えた人の割合は、男性(1.2%)が高くなっている。

◆年齢別で見ると、「続けたほうが良い」と答えた人の割合は、20代(59.3%)と60歳~64歳(80.2%)とでは20.9ポイントの差がある。

◆地域別で見ると、「続けたほうが良い」と答えた人の割合は東三河地域(80.1%)が高くなっている。

◆職業別で見ると、「続けたほうが良い」と答えた人の割合は無職(75.4%)が高くなっている。



性別	男性	74.9%	6.5%	3.0%	15.0%	0.6%
女性	73.7%	6.0%	0.1%	18.8%	1.3%	
年齢別	20歳~29歳	59.3%	5.6%	0.0%	34.3%	0.9%
	30歳~39歳	71.3%	6.2%	1.0%	21.5%	0.0%
	40歳~49歳	70.3%	5.5%	2.0%	21.9%	0.4%
	50歳~59歳	75.3%	5.9%	2.4%	15.3%	1.0%
	60歳~64歳	80.2%	7.5%	0.5%	10.8%	0.9%
	65歳以上	78.1%	6.6%	1.7%	11.9%	1.7%
地域別	名古屋地域	73.0%	7.2%	2.7%	15.9%	1.2%
	尾張地域	73.2%	5.2%	1.2%	19.4%	1.0%
	西三河地域	75.6%	5.8%	0.6%	17.0%	1.0%
	東三河地域	80.1%	7.5%	1.2%	11.2%	0.0%
職業別	自営業	68.7%	8.8%	2.2%	18.7%	1.6%
	勤め人	75.1%	5.5%	1.6%	17.2%	0.6%
	無職	75.4%	6.1%	1.2%	16.3%	1.0%

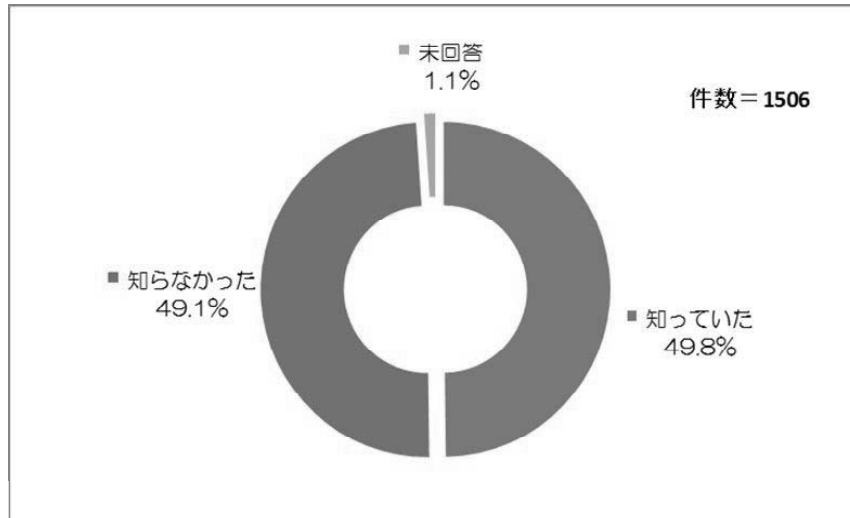
IV 里山林整備事業について

(1) 里山林整備による公益的機能回復の認知度

公益的機能を回復させるため、里山林を整備する必要があることを「知っていた」49.8%

問IV-1 公益的機能を回復させるため、里山林を整備する必要があることを知っていましたか。

(〇は1つ)



公益的機能を回復させるため、里山林を整備する必要があることを「知っていた」と答えた人の割合は49.8%で、「知らなかった」と答えた人の割合は49.1%あり、回答が拮抗している

※「里山林整備事業」とは放置された里山林を対象に、公益的機能を回復させるため、枯れたり、支障となる木の抜き伐りや侵入竹の伐採などの森林の手入れ、作業小屋や管理道などの施設整備を行う事業。

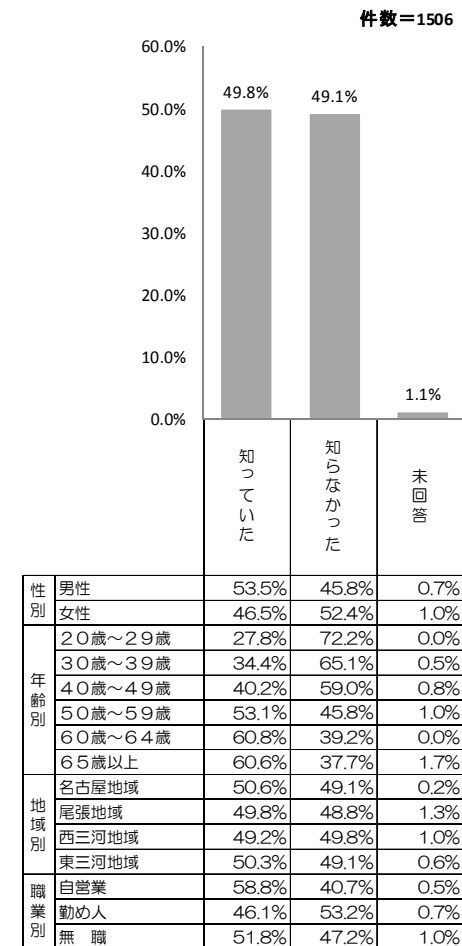
里山林整備による公益的機能回復の認知度（性別、年齢別、地域別、職業別）

◆性別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は男性（53.5%）と女性（46.5%）とでは7.0ポイントの差がある。

◆年齢別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は20代（27.8%）と60歳～64歳（60.8%）とでは、33.0ポイントの差がある。

◆地域別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は地域によって大きな差は見られない。

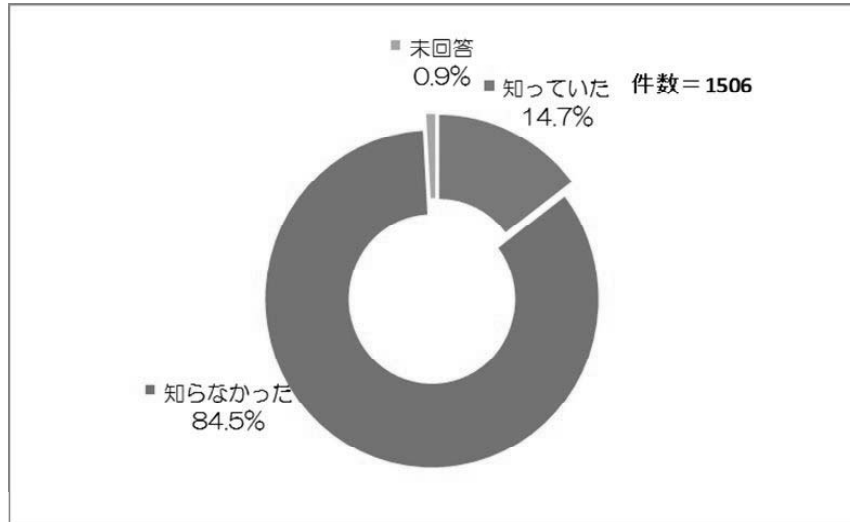
◆職業別で見ると、勤め人（46.1%）が低くなっている。



(2) 里山林整備事業の認知度

里山林の整備をしていることを「知らなかった」84.5%

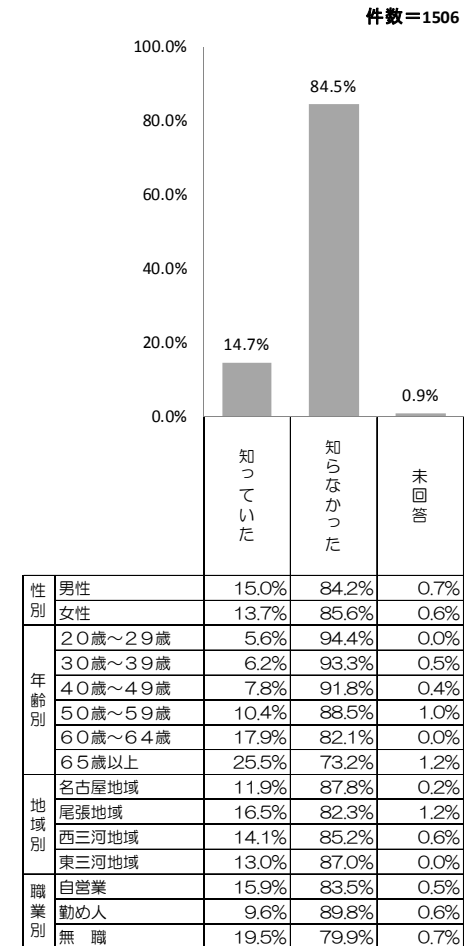
問IV-2 あいち森と緑づくり事業で、里山林の整備をしていることを知っていましたか。(〇は1つ)



あいち森と緑づくり事業で、里山林の整備をしていることを「知っていた」と答えた人の割合は 14.7% である。一方で「知らなかった」と答えた人の割合は 84.5% と高くなっている。

里山林整備事業の認知度 (性別、年齢別、地域別、職業別)

- ◆性別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は男性 (15.0%) が高くなっている。
- ◆年齢別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は 20 代 (5.6%) から順に高くなり、65 歳以上では (25.5%) と 19.9 ポイントの差ができています。
- ◆地域別で見ると、「知っていた」と答えた人の割合は尾張地域 (16.5%)、次いで西三河地域 (14.1%) の順に高くなっている。
- ◆職業別で見ると、勤め人 (9.6%) が低くなっている。

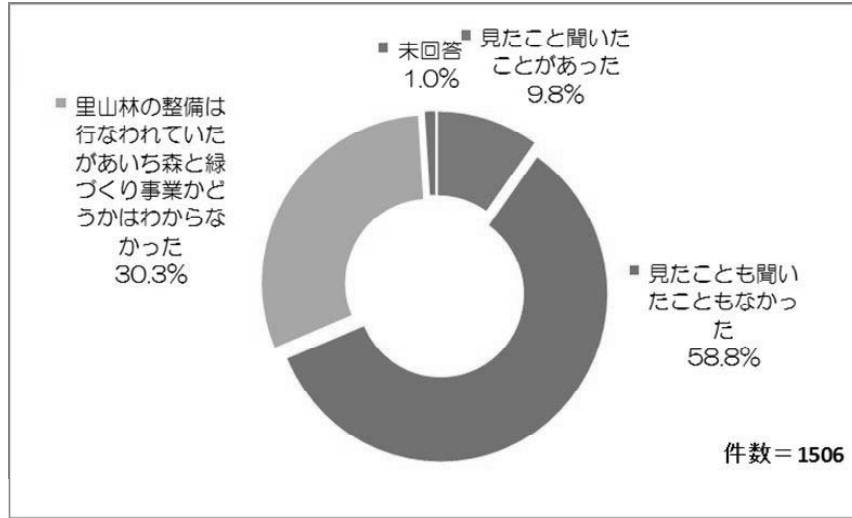


(3) 里山林整備事業の理解度

里山林整備事業の実施について「見たことも聞いたこともなかった」が58.8%

問IV-3 あいち森と緑づくり事業による里山林の整備を、見たこと、聞いたことがありましたか。

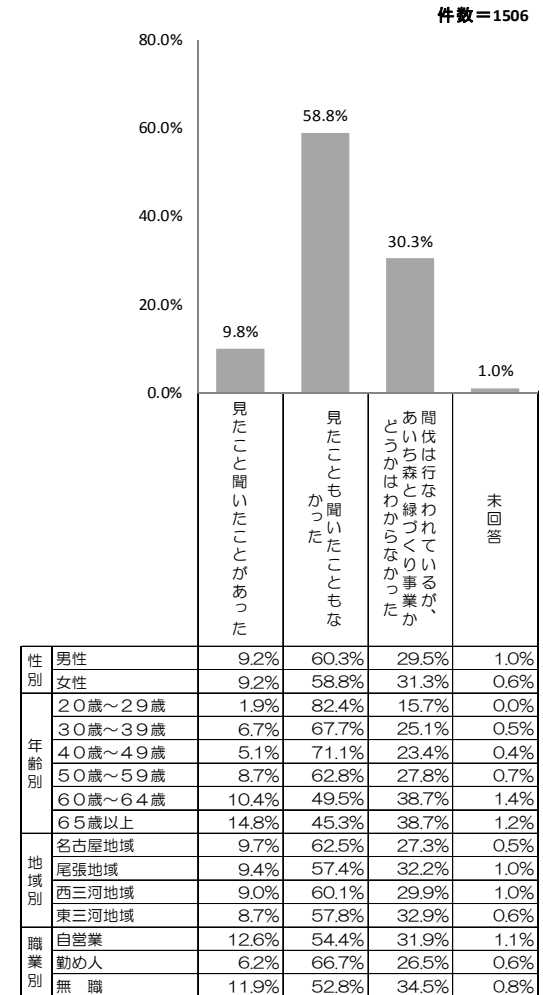
(〇は1つ)



あいち森と緑づくり事業による里山林の整備を「見たこと聞いたことがあった」と答えた人の割合は9.8%あり、「里山林の整備は行われているがあいち森と緑づくり事業かどうかはわからなかった」と答えた人の割合は30.3%ある。一方で、「見たことも聞いたこともなかった」と答えた人の割合は58.8%ある。

里山林整備事業の理解度 (性別、年齢別、地域別、職業別)

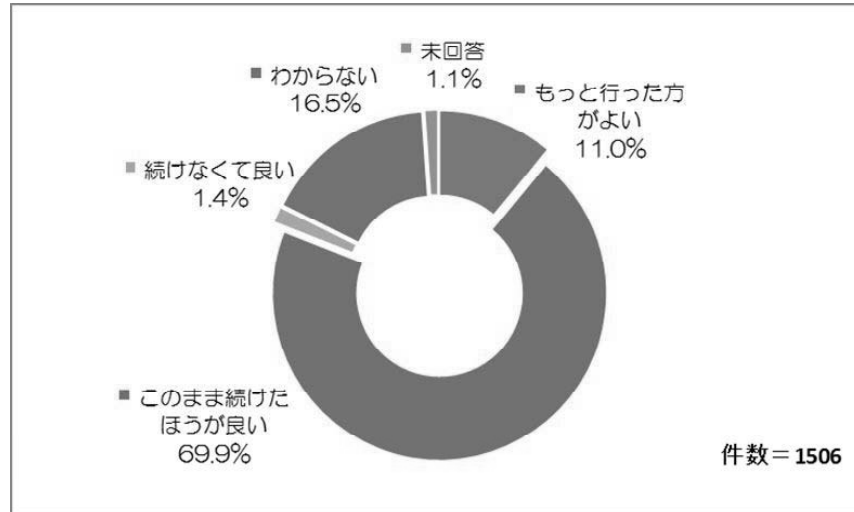
- ◆性別で見ると、「見たこと聞いたことがあった」と答えた人の割合は男女とも9.2%と同じである。
- ◆年齢別で見ると、「見たこと聞いたことがあった」と答えた人の割合は20代(1.9%)が低くなっている
- ◆地域別で見ると、「見たことも聞いたこともなかった」と答えた人の割合は名古屋地域(62.5%)が高くなっている。
- ◆職業別で見ると、「見たこと聞いたことがあった」と答えた人の割合は勤め人(6.2%)が低くなっている。



(4) 里山林整備事業の継続について

里山林整備事業の継続について「このまま続けたほうが良い」が69.9%

問IV-4 あいち森と緑づくり事業で、今後も里山林の整備を続けたほうが良いと思いますか。(〇は1つ)



あいち森と緑づくり事業で、今後も里山林の整備を続けたほうが良いと思いますか。との問いに対し「もっと行ったほうが良い」と答えた人の割合は11.0%、「このまま続けたほうが良い」と答えた人の割合は69.9%ある。一方で「続けなくてよい」と答えた人の割合は1.4%、「わからない」と答えた人の割合は16.5%となっている。

「続けなくて良い」の理由としては、「必要性を感じない」、「地握者及び地元負担で行う」、「所有者が行う」、「ボランティアで行う」などがある。

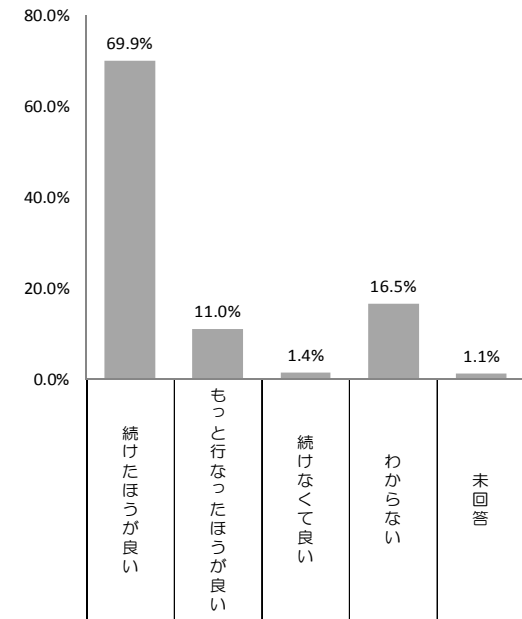
(5) その他、里山林整備に対する自由意見

「災害防止のために整備は必要」、「事業のPRが必要」、「今後も事業を継続してほしい」、「里山を自由に利用したい」、「里山林が身近なものとなってほしい」、「過剰な伐採はしないでほしい」などがある。

里山林整備事業の継続について(性別、年齢別、地域別、職業別)

- ◆性別で見ると、「続けなくてよい」と答えた人の割合で女性が0.0%となっている。
- ◆年齢別で見ると、「わからない」と答えた人の割合は20代(30.6%)が高くなっている。
- ◆地域別で見ると、「続けたほうが良い」と答えた人の割合は東三河地域(75.2%)、次いで西三河地域(74.6%)の順に高くなっている。
- ◆職業別では、職業属性によって回答に大きな差は見られない。

件数=1506



性別	男性	67.8%	12.6%	2.9%	15.6%	1.2%
女性	72.3%	9.4%	0.0%	17.6%	0.8%	
年齢別	20歳~29歳	62.0%	6.5%	0.0%	30.6%	0.9%
	30歳~39歳	72.3%	9.2%	1.0%	16.9%	0.5%
	40歳~49歳	66.4%	9.8%	2.0%	21.1%	0.8%
	50歳~59歳	72.9%	8.3%	2.4%	15.6%	0.7%
	60歳~64歳	68.9%	16.5%	0.5%	13.2%	0.9%
	65歳以上	72.3%	12.4%	1.2%	12.7%	1.5%
地域別	名古屋地域	69.5%	12.2%	2.5%	15.6%	0.2%
	尾張地域	67.3%	11.4%	1.2%	18.7%	1.3%
	西三河地域	74.6%	8.7%	0.3%	15.1%	1.3%
	東三河地域	75.2%	9.3%	1.2%	13.7%	0.6%
職業別	自営業	68.7%	11.0%	1.1%	18.1%	1.1%
	勤め人	70.4%	9.8%	1.8%	17.2%	0.9%
	無職	70.8%	12.0%	1.0%	15.3%	0.8%